

翔陽生 大津町議会傍聴に

12月15日(月)、大津町議会(一般質問2日目)の様子を翔陽高校3年次生20名(政治経済受講者)が傍聴させて頂きました。7月の参院選の前には模擬公開討論会・模擬投票の授業を行い、主権者としての意識が高まった生徒たち。今回は議場から見える眺めの良さに感動するとともに、議会の雰囲気を感じることができました。生徒たちのレポートの中から一部をご紹介します。



たなか りおん
田中 璃音さん
(菊池北中出身)

議会を傍聴してみても大津町には「いち早く発展していきたい」という想いがとても強くある一方で、政策や具体的な対策がまだ十分に進んでいないという部分もあることを感じました。また、大津町に住んでいる人たちが大津町の現状や課題を知る機会が少ないことは一つの課題だと感じました。今回、政治経済の授業で傍聴したから私たちは色々なことを学べましたが、そうでなかったら何も知らないまま大人になったかもしれません。若い世代にも分かりやすく伝える工夫が必要だと思いました。私は大津町の高校生の一人として、町の未来を「決められる側」から「考えていく側」として関わっていきたくと思いました。例えば今回の議会傍聴での内容をもとに共有したり、自分の意見を伝えられる機会があれば積極的に参加し、若い世代の声を町に届けていきたいです。今回の傍聴が、町の未来を自分事として考えていく良いきっかけになりました。

私は生まれたときから住んでいる大津町は住みやすく良い町だと感じながら過ごしてきましたが、課題もたくさんあり、それらの解決に向けて着実に動いているんだと感じました。私たちが直接意見を伝えるのは難しいと感じるけれど、今回のように議会を傍聴したり、「議会だより」などに目を通して現状を把握し、選挙などがあれば必ず自分の意思で投票するという形で関わっていきたくと思いました。

今回の傍聴で「そんなことがあるんだ」と全く知らなかった大津町の課題を知ることができ、今の私たちの生活にも関係が深い話題もありました。今後の動きに注目して、課題解決に向けた動きを見ていきたいです。



たなか りおん
田中 璃音さん
(大津北中出身)

半導体を中心として様々な企業が発達している大津町では地下水や下水道問題などの課題を今回の一般質問では挙げられており、それぞれの問題への回答を知ることができました。地下水問題については、しっかりとした情報や知識をもう一度身に付けることで公害の恐ろしさや汚水の影響を知り、地下水問題の危険性を理解していくべきだと思いました。また、スピード感を重視すべきだという意見が出ており、計画的に進めるためには、明確に時期を設定し、周りの方を安心させることにつながる政治の進め方の重要さを学びました。社会全体の経済状況を踏まえた考えを一人の大人として考えることで色んな問題に関わることができると感じました。大津町だけでなく、住んでいる市町村や卒業後、生活する場所についても知りたいと思います。



りんご かつなり
林 結香さん
(楠中出身)

初めて議会を傍聴しました。議会中とはとても静かで緊張した雰囲気でしたが、休憩に入ると議員の方が話しかけてくださったりしました。今回傍聴した議会の一般質問では、地下水の取水量の問題を聞き、TSMC 進出により交通量も増え、渋滞問題もある中で、住んでいる住民にとっては問題視される内容だと思いました。また自衛隊への個人情報の提供の除外申請については、そのような制度ができることを知らなかったため、私たち世代も知ることができるよう、学校の廊下にポスターを貼ったり、SNS を活用して除外申請できることをアップすると若い世代の目にも入るのでは、と考えました。



いせり すずな
井芹 涼菜さん
(阿蘇西原中出身)

若者の視点

尚綱大学生によるレポート 38

大津町議員との意見交換会を終えて

11月12日(水)に尚綱大学現代文化学部3年生25名と大津町議会広報委員5人とで現代文化学部の課題探究プロジェクト演習の授業の場において意見交換会を行いました。3年生の学生は、アルバイトなどの社会体験もある関係で、意見交換会の後、率直な個人的意見を含めたレポートを提出しています。以下学生の考えを抜粋し紹介します。

1. 印象に残ったこと

大津町議員との交流で印象に残ったことが2つあります。1つ目は、「おおまち議会だより」についてです。大津町議会が行ったことをただ書くのではなく、文字の間隔を広めたり、20ページフルカラーにしたりと町民に見てもらうための工夫が印象に残りました。2つ目は、乗り合いタクシー制度です。区域内であればどこでも降車・乗車ができる制度で、調べたところ150円～(区域によるが)利用できるそうです。近年ではバスの本数が減ったり、値段が上がったりと簡単にバスを利用しにくくなっているの非常によい制度だなと印象に残りました。

2. 疑問に感じたこと

大津町では議会だよりの発行に1回でかなりの額を使用しているところに少々疑問ももちました。たしかに高齢者や若者のどちらにも見てもらいたいという気持ちは分かるのですが、若者は紙媒体で見る人は少なくWeb上で見る人が多いと思います。そのため、発行部数を減らして議会だよりを紙媒体で欲しい人だけがもらえるようにしたいいいのではないかと考えました。町民に直接聞いたり、アンケートを取ったりするなどして今後の発行にかかる費用を改める必要があると感じました。



現代文化学部
3年
まえだ りん
前田 凛さん



現代文化学部
3年
まつもと りな
松本 菜央さん

今回は、議会の活動を中心に、大津町が力を入れる取り組みについてお話を聞きました。その中で私が特に興味をもったのは、若者世代と高齢者世代へ向けた取り組みです。

授業内で配布された大津町の議会だよりは、若い世代にも興味をもってもらえるようにとリニューアルされたものらしく、全ページカラーとなっており、比較的文字が大きいほか文字数も減らし読みやすくなっていることが特色でした。QRコードが記載されており、スマートフォンで読みこむことができるページが多いのも印象的でした。

このリニューアルは、スマートフォンが身近な若者だけでなく、高齢者にとってもメリットがあり、すべてをデジタルではなく、あえて紙のまま残し、大きな文字で高齢者も読みやすくなっています。

また、大津町は人口が増加傾向で子育て世帯をピックアップすることが多いというお話を聞きましたが、高齢者の自動車免許自主返納に対する特典や、安価な料金で乗合タクシーが利用可能といった支援もされており、若い世代・高齢者世代の双方に目を向けた取り組みがなされていることに感心しました。